

平成30年度学力向上研究指定校事業第2回連絡協議会・報告資料

平成30年度の実践の概要

学 校 名	石巻市立向陽小学校	主な取組教科	算 数	
研 究 主 題	「分かる喜びや学ぶ楽しさを実感できる児童の育成」 —ともに学び合う算数科の授業づくりを通して—		研究年次	1 / 3年次

1 今年度の主な学力向上の実践と成果

学力向上の実践	成 果	評価の根拠
<視点1>ペア学習やグループ学習を通して、 学び合いに主体的に取り組ませる。	ペア学習の進め方などの話型を作成、活用し、 意欲的に学び合いに取り組むことができた。	授業研究会の児童の様子やノートの記述、学 習アンケートの変容から明らかになった。
<視点2>分かったことや学び合ったことを振 り返らせる場の工夫をする。	学習の結果や過程、友達の考えのよさなどを 主体的に振り返ることができた。	授業研究会の様子やノートの記述、学習アン ケートの変容から明らかになった。
<研究を支える実践> 学習環境の整備や学習規律の統一を図る。	学習コーナーの設置や「向陽スタンダード」 を作成、配付し、学習規律の統一を図った。	児童の実践状況や保護者との話し合いからよさ が明らかになった。
指導案の構想や分担、模擬授業、先行授業等 の協働研究を行う。	授業実践の成果と課題の累積や継続により、 共通理解し、授業改善を図ることができた。	児童の様子や一人年間1回～4回の研究授業 への実践の際の話し合いから明らかになった。

2 残された課題・要因と今後の方向性

課題・要因	今後の方向性
見通しが足りず、振り返りにおいて、自らの学びや友達の考えのよさ を実感させたいが、1単位時間内にたどりつかないことがある。	見通しの持たせ方や振り返りの視点の与え方の工夫について検討し、 共通理解を図り、授業実践を通して、成果と課題を累積する。
学び合う目的や内容、ゴールをはっきりと意識しなかったために、学 び合いのねらいが曖昧になることがあった。	学び合いの目的や学び合いの類型化について話し合い、学び合いのゴール をイメージした授業作りについて検討し、共通理解を図る。